

モザンビークにおけるユース中心のSDGs 達成に向けた国際ESD

活動地域  モザンビーク

ひろげる助成

3年目

実践

CLC管理に関わるリーダー **4人**

ESDエコツアー受入れ人数 **5人**

今年度計画の達成度 **70%**

目標達成度 **65%**



CLCでセミナーを実施

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

短期間で大きく成長するといわれるモリンガだが、思うように成長しない個体や、葉をつけても枯れて葉を落としてしまう個体があり、専門的な知識が必要となった。

■ 工夫した点

モリンガの専門家を招き、村に適した育成方法について助言してもらい、苗木からの植栽を挿木での植栽に変更したり、携帯電話を活用し、現場の状況を把握できるようにした。

課題

モザンビーク共和国・シヤンガニーネ村では、
①村で適切に処理できないごみが放置されている
②十分な教育を受ける場がなく、生活の質の改善を図ることができていない

目標

ユース世代を中心にコミュニティラーニングセンター (CLC) をESD拠点として、ごみ回収活動の習慣化、コミュニティフォレスト整備、ユース交流による学びあいを行う。

活動内容と成果

- CLC拠点で村人を対象としたセミナーを開催した。CLCでのごみの収集・分別作業を行い、プラスチックを集めてエコブリックを作るなど、循環型社会構築のための研修プログラムを実施した
- コミュニティフォレストづくりのため、栄養価の高いモリンガの植栽を行った
- ESDエコツアーを実施し、高校生2人、大学生1人、高校教員2人の計5人が参加し、都市部と農村部の生活、開発の違いを体験し、環境に配慮した持続可能な社会づくりについて考えを深めた



若手リーダーによる講演



プラスチックを集めてエコブリックの作成

全助成期間の活動を振り返って

活動当初は散乱していたごみも、現在ではCLCや小学校の周辺ではほとんど見られなくなった。また、コミュニティフォレストの管理に自主的に参加する住民が現れるなど、村の住民に明らかな変化があり、一人ひとりの自主性を高めることができた。ESDエコツアーを実施し、日本の高校生や大学生が参加、交流を行うことができるプログラムとすることができ、CLCが学びと実践の拠点として村で認識され始めている。

〒790-0803
愛媛県松山市東雲町5-6
電話：089-993-6271
E-mail：wwakuwaku@egn.or.jp
HP：https://www.egn.or.jp/



今後の展望

CLCの運営団体として、「Tiyiselani (ティーセラニ) =To Be Strong」が結成されたり、村のユースグループとして「Nkhululeko (クルレーコ) =Peace」が立ち上がろうとするなど、自立的な動きがみられるようになってきている。3年間の助成活動で得ることができた知識や仕組みをいかして、村の自立的な運営を行える体制づくりの支援や、日本とモザンビークの交流を継続して行いたい。